

一デナリオンの取り決め マタイ20:1~16 / 李正雨師

多くの人々は、神様は公平だと思っています。皆様はいかがでしょうか。皆様が信じている神、キリスト教の神は、公明正大な神ですか。私は、神様が正しいということに、疑問を差し挟む余地はないと思いますが、神様が公平であるということには、すぐに賛成するのは難しいです。神様をどんな観点から見ると、どの基準を持って判断するかによって、神様の公平性は変わります。福音書を見ると、イエス様といつもぶつかっている人々は、律法学者と律法を守るファリサイ派の人々であることが分かります。なぜ彼らは、イエス様といつもぶつかったのでしょうか。彼らが最も大切に思ったのが法律だからだと思います。一般的に法律は、公正、公平、フェアを基準にしています。もちろん、律法は宗教的な法律ですが、人と共同体を保つためには、公正や公平のようなものが基準になるしかありません。それで、神様の御心を言われているイエス様と律法に従っている律法学者、ファリサイ派の人々は、対立するしかなかったと思います。神様の御心は、人間の考えや法律の観点から見ると、公平ではないからです。

今日の福音書も、このような視点と考え方についてのことだと思います。もし今日の福音書を労働組合の観点から見ると考えてみましょう。とんでもないことになるでしょう。どうして、まる一日働いた人と一時間しか働かなかった人の賃金が同じになることができるのでしょうか。労働組合ではなく、幼い子に聞いてみても賃金は違うというでしょう。しかし、イエス様の考えは違いました。イエス様は、家の主人が彼らに同じ賃金を与えたと言われました。そして、これが天の国のたとえだと言われます。では、天の国というところは、公平ではないところでしょうか。多く働いた人と少なく働いた人の待遇が同じとは。私たちの考えでは、到底理解できないことです。働いた時間ではなく、働くということだけで待遇が同じであれば、誰も朝早くから働かないでしょう。それにもかかわらず、イエス様はこのような天の国について言われました。なぜイエス様は、このような天の国のたとえを言われたのでしょうか。なぜ天の国では、このような不公平なことが起こるのでしょうか。今日の福音書を通して調べてみましょう。今日の福音書1~2節の言葉です。「天の国は次のようにたとえられる。ある家の主人が、ぶどう園で働く労働者を雇うために、夜明けに出かけて行った。主人は、一日につき一デナリオンの約束で、労働者をぶどう園に送った。」

今日の福音書での主人は、夜明けに出かけて行きます。自分のぶどう園で働く人を選ぶためです。そして、一日につき一デナリオンの賃金を約束して、労働者をブドウ園に送ります。ここで「約束」と翻訳された言葉は「συμφωνέω(シムフォネオ)」と言います。「一緒に」という意味である「シム(σύν)」と「音を出す」という意味である「フォネオ(φωνέω)」が合わさって作られた言葉です。「一緒に音を出す」という意味を持っているこの言葉は、後に「シンフォニー」の語源になります。そして、先々週の福音書で「あなたがたのうち二人が地上で心をつにして求めるなら…」という文章がありました。ここで、「心をつにして」という言葉も「συμφωνέω(シムフォネオ)」です。つまり、今日の福音書での約束は、「一方的でなく取り決められた状態、一緒に定めたこと」を言うのです。主人は、夜明けに出かけて労働者を選び、賃金を取り決めてブドウ園に送りました。そしてこの取り決め、シムフォネオ(συμφωνέω)は、朝早く雇われた人たちだけと行われたものです。主人は、その後に雇われた人々とは、取り決めませんでした。今日の福音書3~4節です。「また、九時ごろ行ってみると、何もしないで広場に立っている人々がいたので、『あなたたちもぶどう園に行きなさい。ふさわしい賃金を払ってやろう』と言った。」

主人は、仕事がないので、何もしないで広場に立っている人々を雇います。ところが、彼らとは「シムフォネオ(συμφωνέω)、取り決め」をしませんでした。ただ彼らに「ふさわしい賃金を払ってやろう」と言うだけです。ここで「ふさわしい」と翻訳された言葉は、ギリシャ語で「δίκαιος(ディカイオス)」、正当であるという意味です。主人は、二番目の雇用者には「取り決め」ではなく「正当に」賃金を払うと言ったのです。

しかし、九時に雇われた人は、何の提案もしません。雇用の時間が過ぎたからでしょう。働かなければならなかったのに「正当に」賃金を払ってやろうという主人の言葉を信じるしかなかったと思います。主人は十二時と三時、そして五時にも広場に行きます。そして、二番目の労働者と同じ条件で他人を雇います。誰も雇ってくれなかった人々を雇って、自分のブドウ園に送ったのです。

実は、このような雇用は、この世にはないものだと思います。私は、以前、アルバイトとして何回も寄せ場に行ったことがあります。皆様がご覧になるように、私は体も大きく、力持ちのように見えるので、すぐ職場に送られました。しかし、そうでない人もいます。選ばれず、寄せ場に残された人もいたと思います。そのような人々は、一日が空振りに終わるのです。ところが、今日の福音書のブドウ園の主人は、そのような人々も皆雇いました。正当に賃金を払うという言葉と共に、午後5時にも広場に行って人々を雇ったのです。そして、夕方になると、主人は彼らに賃金を払います。今日の福音書8～9節です。「夕方になって、ぶどう園の主人は監督に、『労働者たちを呼んで、最後に来た者から始めて、最初に来た者まで順に賃金を払ってやりなさい』と言った。そこで、五時ごろに雇われた人たちが来て、一デナリオンずつ受け取った。」

五時頃に雇われた人々が一デナリオンを受けました。そうすれば、その前から来て働いた人は、もっと受け取られるだろうという期待感を抱くでしょう。しかし、ブドウ園で働いた人々は、皆一デナリオンずつを受けました。十二時と三時に来た人も、午前九時に来た人も、一デナリオンを受け取りました。そして、朝早く取り決めによって雇われた人々も、同じ一デナリオンを受け取りました。このようなことは、この世ではあり得ないことでしょう。多く働いた人は多くの賃金を受け、熟練者は優遇を受け、実力ある者は良い扱いを受けるのがこの世の法則です。働いた時間に関係なく、皆が一タラントずつ受け取るのは、この世で公平なことではありません。しかし、今日の福音書は、これら世の考えは間違っていると言います。天の国の公平は、この世の基準とは違うと言います。早く働いたからといって、多くのことをしたからといって、他人より良い扱いを受けるべきではありません。

ブドウ園の主人を御覧ください。ブドウ園の主人は、何に夢中になっていますか。自分のブドウ園ですか。それとも人を雇うことですか。世の中のブドウ園の主人であれば、自分のブドウ園にもっと気を使ったでしょう。しかし、ブドウ園の主人は、人を雇うことに気を使っています。広場に何度も行って、人々を雇っています。ぶどう園より人々の賃金を心配してくれているのです。イエス様は、これが天の国のたとえだと言われます。今日の福音書の前の箇所、ペトロはイエス様にこう尋ねました。「ペトロがイエスに言った。『このとおり、わたしたちは何もかも捨ててあなたに従って参りました。では、わたしたちは何をいただけるのでしょうか(19:27)。』」

この世の法則通りなら、イエス様の弟子たちほど、ペトロほど偉い人はいないでしょう。誰よりも早く弟子となり、誰よりも多くのことを経験したからです。しかし、イエス様はこのようなペトロの前で、一デナリオンの取り決めを語っておられます。そして、天の国はこれと同じだと言われます。早く来た人も、遅く来た人も、一デナリオンを受け取ることができるところ、まる一日、暑い中を辛抱して働いた人も、広場で雇われなかったのに、心配している人々も、同じ扱いを受けるところ。そこが天の国だと言われます。そして天の国を目指している人々は、この世ではなく、天の国の公平に従わなければならないと言われます。ですから、少なくとも私たちにとっては、今日の福音書の教えが正しいのです。この世の観点からは、全然公平ではないものですが、私たちクリスチャンにとっては、公平なものです。みんなに一デナリオンずつ与えられたからです。ブドウ園の主人のように、神様は私たちに一デナリオンの約束をされました。私たちが集中して感謝しなければならないのは、取り決められた一デナリオンです。他の人の賃金ではありません。神様は、私たちみんなに正当な賃金、ふさわしい賃金を与えられるでしょう。これを信じて、自分の取り決めに集中する皆様になりますように。この世の公平ではなく、天の公平を目指す皆様になりますように、主の御名によって祈ります。アーメン